



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えなさい。
解答は、裏面に記すこと。

2021年 2月2日朝刊

江戸末期の蕪山代官江川英龍の業績
発信を目的とした有志団体「江川英龍
公を広める会」が、江戸中期まで江川
家が醸造していた日本酒の復元プロ
ジェクトに取り組んでいる。江川酒と
呼ばれ、徳川家康や豊臣秀吉も愛飲し
たとされる。当時の製法書を基に地元
の蔵元が仕込み作業を進めていて、約
320年ぶりの復活を目指す。

家康や秀吉も愛飲 蕪山の「江川酒」 320年ぶり復活へ



江川酒の仕込みの状況を確認する関係者＝伊豆市の万大醸造

英龍公を広める会



製法書を発見 仕込み

同会副会長で江川文庫学
芸員の橋本敬之さん(68)に
よると、江川家に集められ
た年貢米の一部を使って造

つていた。蕪山城を築いた
北条早雲が江川酒と命名
し、全国の戦国大名に贈つ
たとの史料が残る。秀吉は
花見のために取り寄せ、蕪
山へタカ狩りに訪れた家康
も称賛したという。

しかし、1698年の財
政改革で年貢が幕府に直接

納められるようになったた
め、江川家が使える米がな
くなり、そこから醸造でき
なくなった。その当時書か
れたとみられる製法書「御
手製酒之法書」が昨年5月
に見つかり、今回のプロジ
ェクトを企画した。

蔵元は伊豆市の万大醸
造。図解されている道具の
再現は難しいものの、白米
やこし、水の量はほぼ製
法通りに仕込みを進めて
いる。現代の製法よりも使
う水の量が少ないという。

1日には同会の関係者ら
が仕込みの状況を確認に訪
れた。江川家42代当主の江
川洋さん(50)は「いろいろ
な時代の人が飲んで楽しん
だ酒。江川家の歴史に興味
を持つてもうきつかけに
なれば」と期待を寄せた。
杜氏(とうじ)の伊奈静夫
さん(73)は「どんな味にな
るか想像がつかないが、甘
さや酸が多めに出るかも」
と予測した。早ければ今月
中に完成する。4合瓶数百
本分程度の量を見込む。販
売するかは未定。
(大仁支局・小沢佑太郎)

- ①江戸時代、享保の改革で代官の役人化が強化されたが、江川家は世襲代官として伊豆一帯を統治した。幕藩体制において、世襲代官が在地支配を行う意義を考察せよ。
- ②江川坦庵公が蕪山反射炉を築造しようとした意義を、時代背景を考慮しつつ考察せよ。
- ③江戸中期の製法書を基に、日本酒の仕込み作業を行う意義を考察せよ。

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 実石克巳(静岡高校 教諭)

(高校/国語)

<参考>①=日本史学 地方行政学に関する問題、②日本史学 金属工学 防衛学に関する問題、③醸造学 微生物学 遺伝子学に関する問題